



愛知環境カウンセラー協会報

<令和元年度 環境カウンセラー研修（中部地区）の報告>

会長 齊藤 保彦

2018年度より、全国7地区の環境カウンセラー研修運営業務は環境省本省一括契約となり、昨年度に続き、環境カウンセラー全国連合会（ECU）が受託しました。中部地区の研修は、ECU 会員である愛知環境カウンセラー協会（AECA）が運営を担い、2月12日（水）環境省稲永ビジターセンターで開催されました。今年度は、国連生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）から10年目を迎え、環境カウンセラーには、企業や市民の環境保全活動への一層の貢献が求められている中、SDGsの達成に必要な知識を学びスキルを高める研修が実施されました。その内容を報告いたします。

受講者数51名（愛知県34名、岐阜県6名、三重県5名、長野県2名、富山県1名、石川県1名、千葉県1名、静岡県1名）

1. 開会の挨拶

地域の循環共生圏の構築に向け貢献を

環境省中部地方環境事務所環境対策課 課長

萩ノ脇裕司 氏

研修で学んだ情報、培ったスキルや人脈を生かして、環境に関する国際社会共通の目標、SDGsの達成に向けた活動、

気候変動・地球温暖化に対処するためのライフスタイルの見直し、地域の循環共生圏の構築に向けて、市民や事業者への環境活動の一層の啓発と活動を担う人々の指導に貢献いただきたい。

2. 基調講演1

2020年愛知・なごやから考える生物多様性の未来

～生物多様性条約とIPBESに関わる最新の動向から～



講師：名古屋大学大学院環境学研究科 教授

香坂 玲 氏

(1) 背景：生物多様性と気候変動

気候変動は普遍的でハードな科学ですが、生物多様性は土地利用や社会・暮らしにどう関係するかなど、不明な点が多々あります。

COP10では「地球上の多様な生き物をその生息環境とともに保全すること」、「生物資源を持続可能であるように利用すること」、「遺伝資源の利用から生じる利益を公平かつ衡平に配分すること（ABS）」を目指し、愛知目標を採択しましたが、気候変動に比べて関心や取組みが弱く、経済的効果が出ないことから、期限の2020年までには達成できないと思われま

(2) 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム（IPBES）

IPBESの第7回総会は、「2019年5月までに100万種の生物が絶滅」と記した科学者による報告書を発行、「自然がもたらすものは減少しており、愛知目標やSDGsは達成できない。変革を促す協調的な努力を今すぐ始めることが、自然の持続可能な利用と国際的な社会目標達成に必要」

3. 基調講演2

環境行政の最新動向について

～気候変動と地域における脱炭素化～



講師：環境省中部地方環境事務所

環境対策課 課長補佐 古賀 靖 氏

(1) 気候変動を巡る動き

産業革命以降、大気中のCO₂の平均濃度は急上昇しました。現時点で約1℃温暖化して

と政策決定者向け要約（SPM）を公表しました。

EUと中国は生物多様性保全に積極的です。日本はもっと積極的であるべきです。

(3) 生態系サービス 自然のもたらすもの

生態系の変化の指数DPSIRは、変化の要因を分類し、科学的評価と政策を結び付ける利点があります。なお、従来の「生態系サービス」は「自然がもたらすもの(NCP)」という概念に移りつつあります。生物多様性は各国内の問題でもあり、各地の伝統的知識の継承が重要です。

(4) SDGsと愛知目標

愛知目標とSDGsのメリットは、ともに指標化し可視化したところですが、SDGsの課題は17の目標と169のターゲットを示し、愛知目標になかった分野、例えば持続可能な消費と生産、持続可能な都市など生産活動による環境負荷低減などを含むため、事業者も取り組み易いと思います。

(5) まとめ

SDGsの各目標の関連性が分かり難いと思いますが、科学的対話を通して理解を深め、また地域内で調整と連携を図り、地域に適合した目標達成に向い活動してください。

おり、現状のペースでいけば2030年～2052年の間に1.5℃上昇する可能性が高いと思われま

す。世界共通の長期目標として2℃目標の設定。「1.5℃に抑える努力すること」、「5年ごとに世界全体の実施状況を確認すること」がパリ協定で採択されております。2019年

12月にスペインで開かれたCOP25の主な議題は、パリ協定6条(市場メカニズム)に係る実施指針、排出削減努力の野心的引き上げ、長期目標、NDCの共通時間枠などでした。

日本の温室効果ガスは2013年度から5年連続減少し、2018年度で2013年度比11.8%減となっています。2050年までのネットゼロを宣言した自治体は28に達しており、経団連の「チャレンジ・ゼロ」を基軸に、TCFD賛同企業数は1位、SBT設定企業数は2位、RE100加盟企業数は3位となっています。

(2) 気候変動に対する我が国の取組み

我が国は温室効果ガス削減の中期目標として、“2030年度に2013年度比26%減、2050年までに80%減、”を長期目標として、“今世紀後半のできるだけ早期に「脱炭素社会」(実質排出ゼロ)実現”を策定しています。

脱炭素等の緩和策と気候変動対策の両輪をなす適応策についても、高温耐性品種への転換や熱中症の注意喚起、水位変化に対応できる諸施設的设计、サンゴのモニタリングや移植・増殖などを行っています。

パリ協定の採択による脱炭素化の潮流とも相まって、世界

全体でESG金融の動きは拡大しています。ESG金融の進展に伴い、グローバル企業を中心に、気候変動に対応した経営戦略の開示(TCFD)や脱炭素に向けた目標設定(SBT,RE100)が国際的に拡大しています。

環境省は2018年6月にRE100アンバサダー、2019年10月にRE Actionアンバサダーに参画。環境省RE100に向けて、中間目標再エネ率2020年度30%の電気の調達を前倒し、2019年度から調達中です。

(3) 地域における脱炭素化の取組み

2015年9月、国連総会において「持続可能な開発目標(SDGs)」を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。社会活動と経済活動は、自然資本を基盤に成り立っているものであり、SDGsは環境・経済・社会に統合的に対応することを求めています。

第五次環境基本計画としては、地域循環共生圏の創造と、世界の範となる持続可能な循環共生型の社会(環境・生命文明社会)の実現など、生活の質を向上する新しい成長を目指すこと。地域の特性、地域資源の性質に応じ、最適な規模で地域資源が循環し、SDGsを地域で実践することをビジョンとしています。

4. 事例発表1

SDGs 達成に向けた愛知県環境局の取組



発表者：愛知県環境局環境政策部

環境政策課 主幹 谷口 亮 氏

愛知県は、2019年7月「SDGs 未来都市」に選定され、県内の市町村では2018年6月に豊田市が、2019年7月に名古屋市・豊橋市が「SDGs 未来都市」に選定されています。2027年度開通予定のリニア中央新幹線のインパクトを最大限に生かし、最大の強みである「産業力」を生かしながら、調和のとれた、活力と持続力を兼ねた大都市圏を目指します。特に「愛知目標達成」のため「あいち方式」である「生態系ネットワーク

の形成」と「あいちミティゲーション」に取り組んでいます。生態系ネットワーク形成は、県内9地域で産・学・官・民が連携した「生態系ネットワーク協議会」ごとに地域の特色を生かした取組を展開しています。

現在、策定中の第5次愛知県環境基本計画ではSDGsの達成を加速すべく、複数の課題の統合的解決のための施策を検討しています。その一環として、2020年8月21日(金)、22日(土)、「SDGs AICHI EXPO 2020」を開催の予定です。

(編集 G: EXPO は新型コロナウイルス対策のため延期されました。)

5. 事例発表2

サクラ保全活動の転換期を迎えて



発表者：環境カウンセラーズ信州

稲邊 謙次郎 氏

長野県伊那市高遠城址公園で桜守をしています。公園内の桜はタカトオコヒガンザクラで、桜守は種を維持・保存し、育てるのが仕事です。毎日のように1本の桜の樹を根元から枝の先までよく見詰め、観察します。重い雪が乗っても耐えられるよう、枝数を減らすように剪定をしています。カイガラムシにも気を付けなければなりません。いろいろな病気に対して保険も掛けています。

この公園の桜は、旧藩士たちが城外から樹を移植した桜の人工林で、140年くらい経ちます。樹が弱くなっても、その脇から成長している若木が大きくなり代替わりとなります。その代替わりを保存し、世代交代を見守っていかなければなりません。

桜を育てることは同時に人を育てること。人間より長生きする桜の樹のことを、若い世代に引き継いでいくことが必要です。

模造紙に議論を整理しながらグループワークを行いました。

第1分科会 テーマ：SDGsの達成に向けた取組

6. 分科会

第1分科会と第2分科会に分かれ、分科会ごとにテーマを掲げて、コーディネータの指導の下、数グループに分かれ、

コーディネータ：中部大学・中部高等学術研究所
准教授 古澤 礼太氏

古澤氏から、SDGsについて「SDGsのターゲットは、環境[6, 7, 13, 14, 15]、社会[3, 4, 5, 10, 11, 16]、経済[1, 2, 8, 9, 12]の三段階の立体構成で捉えると、相互の関係が理解しやすい」との解説がありました。

6グループに分かれ、自己紹介、リーダー選出後、目標達成への活動方策を「誰が誰に、いつ、どこで、どのように」を念頭に話し合いました。途中で他のグループにも参加し、新たな視点からの議論ができました。最後に各グループが模造紙を掲げて発表を行い、成果を全体で共有しました。

第2分科会 テーマ：地域循環共生圏の構築

コーディネータ：四日市大学エネルギー環境教育研究会
副会長兼事務局長 矢口 芳枝氏

矢口氏から、地域循環共生圏について「地域が特性を生かし、強みを発揮する自立・分散型の社会形成。特性に応じて補完、支え合うというイメージ」との解説がありました。

3グループに分かれ、自己紹介の後、地域循環共生圏に関わる内容について質問を出し合いました。その後、みんなが興味を持った地域（一事例）について、グループの考える地域循環共生圏の構築（新しい社会の姿）の具体化など、議論を深め、各グループで議論した結果を発表し、検討した内容を共有しました。

7. 全体講習 分科会代表者による合同発表

分科会終了後、全体講習として2つの分科会の代表者による発表が行われ、それぞれ、分科会のコーディネータからコメントをいただきました。

第1分科会 「SDGsの達成に向けた取組」検討結果発表

発表者：田中 健太氏

環境、経済、社会、この3つの枠組みによりSDGsの取り組みは構築されていることを教えていただきました。

私たち環境カウンセラーにできることは、企業に働きかけるよりも、一般の人に「環境」を身近に感じてもらうよう活動することであり、環境問題を社会や経済の観点からもどのようなことができるか、様々な側面から考えていくことが大切であるということをお日の研修で気づかせていただきました。

<コーディネーター（古澤礼太氏）のコメント>

やみくもにSDGs 17項目のうち、どれかだけを選んでやるのではなく、地域をイメージして、その中で総合的に考えて目標を定めることが重要です。SDGsは総合的に取り組めるようなプログラムを実施してください。

第2分科会「地域循環共生圏の構築」検討結果発表

発表者：村橋 光臣氏

「山間地と都市との交流」という切り口から、地域循環共生圏をどのように捉えようかと考えた。30戸60人の集落で、40代までの人がいなくて、50才以上だけの限界集落をテーマとし、どのような問題があるか、それをどう解消できるかを考えました。限界集落を維持させる手段として、情報通信・交通・イベントがあれば都市域と山間地の交流が生まれ、山間地が消滅しないようになります。山間地に何を見出すか、宝物を探すことも大切であり、行政の支援を受けるとともに、宝物を探す支援をしていくべきであります。

<コーディネーター（矢口芳枝氏）のコメント>

「地域循環共生圏」という言葉を知っているかを分科会参加者に聞いたところ、3分の1の方は知らなかった。しかし、SDGsの基本である「自然」をきちっと捉えており、地域循環共生圏というテーマで充実した討議・発表でした。

8. 修了証の授与

研修会の全行程を終え、受講者を代表し、竹居信幸氏（三重県）に修了証が授与されました。

9. 閉会の挨拶

ECUを代表して、齊藤が会場選定の経緯など、挨拶をして研修会が終了しました。

今回の研修は、都心の会議室ではなく、環境保全に係る厳しい社会問題の舞台となった地域を臨む環境学習施設「環境省稲永ビジターセンター」での開催となりました。

渡り鳥の中継地、採餌場になっている干潟の一部にゴミの最終処分場を建設する計画に対し、2000年前後、関係者間で厳しい協議、調整が行われた結果、最終処分場の建設が断念されたという経緯があります。

環境カウンセラーは、こうした環境問題や、本日の研修で取り上げられたSDGsの達成に向けた取組み、地域循環共生圏の構築などに関わり、課題解決に向けて取り組んでいくことが求められており、本日の研修で得られた情報、スキルを今後の活動にぜひ活かしていただきたいと思います。

令和2年度の見学会について（資源循環グループ）

中島 国輔

令和2年度は2か所の見学を予定しています。

まずは、建て替えが済み、新しくなった愛知県環境調査センター（愛知県気候変動適応センター及びあいち環境学習プラザも併設）を訪れ、施設見学を実施します。

時期については、新型コロナウイルスの状況次第ですが、

6月の環境月間中を考えています。

もう1つ、秋には東邦ガスマйнаとアクルスエネルギーセンターの見学を考えています。

案内等はAECA通信で1ヶ月前には呼びかけますので、多くの会員の参加をお願いします。

＜あいち生態系ネットワーク協議会関連＞

齊藤 保彦

加盟している3協議会への参画状況を報告します。知多半島につきましては、フォーラムと総会に参加しましたので概要を報告します。尾張西部と東部丘陵につきましては、総会の状況と活動事例を記します。

○知多半島生態系ネットワーク協議会

2019年度のフォーラム、総会及び懇親会が、2019年12月20日 大同大学に於いて開催されました。

総会では、知多グリーンベルトにおける生物モニタリング結果（知多半島における生物の象徴種である「キツネ」の観察など）の報告がありました。

フォーラム「知多半島ミライ Action Day」は下記の3部構成からなり、知多半島にある大学の学生が中心に活動する「命をつなぐPROJECT 学生実行委員会」が運営に参画しており、産官学など多主体の連携を感じさせる内容でした。

第1部 甦れ、日本の絶滅種

第2部 ごんぎつねが復活する日（知多半島ウォッチング!）

第3部 愛知をひとつに！（50年前、50年後）：

企業と街の緩衝緑地帯として生まれた知多グリーンベルトの森は約50年が経過し、様々な生きもの・植物が息づく「地域の宝」に成長しました。

○尾張西部生態系ネットワーク協議会

令和元年10月24日 豊田合成ビオトープ観察会14名参加

令和2年2月27日 総会中止（新型コロナウイルスによる感染者拡大のため）

○東部丘陵生態系ネットワーク協議会

令和2年3月11日 総会：書面決議による開催（新型コロナウイルスによる感染者拡大のため）

＜環境カウンセラー環境保全活動表彰を受賞しました＞

会長 齊藤 保彦

当協会は、令和2年3月、環境省より「環境カウンセラー環境保全活動表彰」のうち、「自然共生社会貢献賞」を受賞しました。

「環境カウンセラー環境保全活動表彰」の制度は平成30年度に創設され、特に優れた環境保全活動を行った環境カウンセラーに、その活動をたたえ広く社会に知らせるため、環境大臣が表彰するものです。第2回目となる今回は、当協会を含めた3団体と個人9名が受賞しました。

当協会が、三河湾環境再生プロジェクトへの参画など地域の環境団体と連携した活動で成果を上げたことと、自治体などによる環境講座への講師派遣を推進して地域の環境人材

育成に貢献するとともに、エコアクション21地域事務局となるなど、幅広い分野において活動していることが選定の理由となっております。

今回の受賞は、協会創設より20年以上にわたる歴代役員はじめ会員の皆様方のご尽力の賜です。引き続き会員の皆様方のご協力の下、持続発展できる団体として精進してまいりたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。

なお、表彰についての詳細は 環境省のホームページの www.env.go.jp/press/107856.html のサイトをご覧ください。

AECA だより

石川 創

突然、いや、もともと野生動物に存在していたものが人類と接触する機会を持って蔓延し出したのか、はたまた、生物兵器が漏れたのではないかという説も加わって、予期せぬウイルスが世界のどこかで出現し、不安を煽りながらアツという間にパンデミックの様相を呈して世界中を震撼させています。

この地方でも多くの罹患者が出ていますが、憶測や感情に流されることなく、いたずらに恐れず、病魔を冷静に分析して適切に対応し、この会報が発行される頃には収束していることを願って止みません。

ところで、2020年度もAECAでは、三河湾再生プ

ロジェクト事業への参加、環境カウンセラー研修や環境教育インストラクターセミナーなどの開催、SDGs AICHI EXPO 2020 や環境デーなごやへのブース出展、環境見学会や勉強会の開催、環境経営支援など、盛りだくさんの事業を計画しています。会員の皆様の積極的な参加とご支援を期待しています。

○今後の予定

- ・5月 AECA 通常総会（書面決議方式）
※ 議案書への賛否 ハガキ返送（期限：5月18日）
- ・6月6日（土）AECA 理事会（なごのキャンパス）
- ・7月5日（日）AECA 役員連絡会議（本陣共用会議室）

名古屋の学生討論会—ごみ減量から始めるSDGs

浅野 智恵美

1999年2月に名古屋市は「ごみ非常事態宣言」を発表しました。これにより、ごみ処理量は約4割減、埋立量は約8割減となり、ごみも資源も元から減らす発生抑制の取組を進められました。自治体環境グランプリ2003では、220万名古屋市民と名古屋市が「環境大臣賞」と「グランプリ」を同時受賞しています。

しかし、2011年度に実施した容器包装以外のプラスチック製品の分別区分変更以降、プラスチック製・紙製容器包装の資源分別率が低下し、この10年間、ごみ処理量は横ばい状態が続いています。2018年度のごみ処理量は、事業系20万トﾝ+家庭系41万トﾝ=61万トﾝで、目標の59万トﾝは未達成となりました。第5次一般廃棄物処理基本計画では、2028年度に52万トﾝを目指していますが、目標達成に向けた新たな施策の展開が必要と思われます。

SDGsは、環境問題をはじめ人類が抱える諸問題を解決していくための世界共通の目標です。SDGsの目標12「持続可能な消費と生産のパターンを確保する」は、食品ロスや海洋プラスチックごみなど、身近な毎日の暮らしから出るごみに関わる項目です。

2月7日に開かれた名古屋の学生討論会では、愛知・岐阜の大学等から集まった約30名の学生が、「ごみ問題を解決し、循環型社会を実現するには？」をテーマに、ごみを捨てる責任とごみ削減方法を真剣に話し合いました。

学生たちは学校でごみを捨てる時、分別Boxがないこと

等から、レジ袋に何もかも詰め込んで捨てることもあるとのこと。弁当パックなどのプラスチック容器包装やお菓子の空き箱、雑誌、パンフレットなどが、すべて燃えるごみになっています。

帰宅後は独り住まいの部屋が狭いことから、ごみの分別がルール通りに出来ないと話す学生もいました。今の学生たちは環境教育を受けていますが、社会全体に課題が山積していることが分かりました。討論会の最後にグループ発表を行い、その後創造的な提案と思われるカードに各自シールを貼り投票しました。また、全員が一言コメントをボイスレコーダーに残しました。

名古屋市の課題を通し、市民一人ひとりが自分事としてごみ問題を捉え、「捨てる」責任を全うする重要性を皆で考える機会となりました。



環境活動ひとつまみ

出口 知子

2年前の夏の終わり、ビニールハウスの前にスズメの親子が来た。私に気が付いたスズメ達は飛び去り、一羽の子スズメが取り残された。体が小さく成長が遅れて、動きも幼い。「冬越し出来ないな」。思わずパンの小片をやった。空腹だったようですぐにくわえた。が食べ方がわからず焦っている。…絶望的。

翌日、その子スズメは一羽だけで来た。置き去りか。先は長くないし、とパンをやる。何回か来るうちに独特の振り回し法で食べるようになったが、秋に来なくなった。…やっぱり死んだ。仕方ない。

翌年の春、ハウスの前の私に一羽の小柄なスズメが近寄ってきた。まさか。試しにパンをやると見覚えのある独特の振り回し。驚いた、厳しい冬を乗り切ったのだ！

夏を過ぎると2羽(娘?)で来るようになり、秋になるとまた来なくなった。大丈夫か？

そして今年の春。ハウスの前の私に2羽のスズメが近寄って来た。お帰り、お久しぶり！

観察していて初めて知った。スズメには季節がある。春から秋は子育て(夫婦・家族単位)、秋から冬は集団生活。子育て時は昆虫食(芋虫等)で畑、集団生活時は雑穀(草の実等)で田んぼを活動拠点にする。

スズメは賢い。記憶力もよい。あの小さな生き物は数年前のこともちゃんと覚えており、次世代にも引き継ぐ。今回は割愛したが仲間との駆け引き、知恵や悪知恵のレベルも高い。

このスズメの畑は道路の拡張工事のため夏に返却することになっている。ハウスも解体撤去・移転しなくてはならない。…せつない。

人間が一番優れてるなんて人間が決めたこと。人の都合・人の価値観が最優先。

環境は生き物みんなのものじゃないのかい？

「あいち・なごや生物多様性EXPO」への出展

中尾 嘉文

AECAは、2020年1月11日(土)、12日(火)の2日間、名古屋国際会議場で開催された、『未来へつなぐ「国連生物多様性の10年」せいかりレー』キックオフイベントに、ブース出展しました。

2020年は「愛知目標」の最終年であり、今年全国各地で予定されている「せいかりレー」のキックオフイベントとして開催され、さかなクンの講演、シンポジウム、分科会、ステージでは鉄崎幹人氏やSKEのトークショー、NPO・企業・学生等による取組発表等が繰り広げられました。

私たちAECAのブースでは、動植物の写真を当てる環境かるたと空気砲的当てゲームを行いました。環境かるたは大人も子供も一緒に楽しむことができ、愛知県の環境局長と小野技監にも立ち寄っていただき、二人のかるたの真剣な

対戦は、見ている人たちを和ませました。

ブースの壁には春夏秋冬の季節感のわかる万葉集を集めた模造紙や色紙を掲げるとともに、来場者に書いていただいたMY行動宣言を貼り飾り付けました。

ブース来場者には、手作りの折り紙ブックマーカーと絵巻物「(気候変動への) 適応策の心得」をプレゼントしました。

1日目には学生放送局によるインタビュー(会場内ライブ放送と後日youtubeにアップロード)、2日目にはステージ上で齊藤会長がAECAを紹介するとともに入会をPRしました。

2日間、多くの方にお立ち寄りいただき、MY行動宣言が100枚以上集まりました。ありがとうございました。

SDGs と私たち

森田 登喜子

2015年国連におけるSDGsの採択は、それまで15年間のMDGsが発展途上国の問題とみなされてきたのと異なり、



世界の広い層の関心と呼び覚ました。日本では企業が、あたかも「最後の商機」であるかのように積極的に乗り出したことには瞠目しました。当然環境や教育の分野からも熱心な参加がみられました。

私はその序文に「女性の不可欠な役割・完全な参加」を謳う生物多様性条約のCOP10以来、

「環境とジェンダーは不可分の

課題」と考えて活動をしてきました。そのため、所属する女性団体「地域開発みちの会」が「SDGs と私たち」を2019年度の活動テーマの一つに掲げたのは大変嬉しいことでした。

右表に1年間のSDGsに関わる活動実績を記します。

*第1回学習会の目的はSDGsを身近に感じられるようにすることでした。パワーポイントに国連SDGs広報カレンダーの写真を大きく載せて各目標を分かり易く紹介する



稲垣氏講演



会場風景

とともに、世界の問題と日本の問題を説明しました。

*蒲郡市の「生命の海科学館」の見学は大変好評でした。参加者は、山中館長の熱意あふれる説明に打たれ、「触れる地球」で気候変動などを実感しました。

*稲垣学長の講演は広くSDGsについて解説されるとともに、

その必要性を懇々と説く素晴らしいものでした。また参加者に女性が多いことを考慮に入れ、食品ロス、エシカル消費、マイクロプラスチック問題など生活の中で工夫できることについて詳説されました。なおワークショップは、以前AECAの百瀬則子理事がされたものを参考にさせていただきました。

*216枚のアンケートを集計しました。調査結果からは、SDGsの知名度がかなり高いことが分かりました。特に学生は授業で学ぶ機会があり、SDGsが今後広範に知られていくと推測できました。

17の目標のうち重要と思われるのは下記の順でした。

- ① 貧困
- ② 気候変動
- ③ 健康福祉
- ④ 飢餓
- ⑤ 平和と公正

「地域開発みちの会」2019年度の活動実績

- ① 第1回学習会「SDGs って何」 森田登喜子 (17目標の紹介)
- ② SDGs アンケート調査の実施
- ③ 蒲郡市「生命の海の科学館」の見学 山中敦子館長による解説
- ④ 「SDGs と私たち」*ウィルあいちフェスタ参加
SDGsについての講演：稲垣隆司 岐阜薬科大学学長
ワークショップ：わたしたちができることは？
アンケート調査結果の報告
- ⑤ 「SDGs って何」のパワーポイントスライドの展示
(ウィルあいちフェスタ参加他団体の会場にて)
- ⑥ 第2回学習会「SDGs の17目標及び第5目標ジェンダー平等、6ターゲット10指標の分析」 森田登喜子

*第2回学習会では、みちの会の関心事である第5目標ジェンダー平等について、6ターゲットと10指標を細かく見てみました。ターゲットは会員が日頃から問題としている事が多く、第5目標が途上国だけの課題ではないと理解できました。

1年間の学習を経て、さらにSDGsの奥深さを知りました。現在は新型コロナウイルスのパンデミックに足を取られていますが、少しずつでも学習と活動を進めていきたいと思っております。

星空の記 (Ⅲ) —ベテルギウスの変光—

佐藤 正光

オリオン座は三ツ星や大星雲を含む最も有名な冬の星座の一つです。昭和42年の冬、筆者が住んでいた名古屋市の西南部で撮影したオリオン座の写真を示します。当時はカメラの標準レンズ開放でこの程度の写真が普通に撮れる程度に、光害も少なく大気が澄んでいました。このオリオン座の1等星ベテルギウス(和名、平家星)が、昨年末から今年2月中旬にかけて近來になく暗くなったことで、超新星爆発の兆候かと大きな話題となりました。変光星のベテルギウスは昭和42年当時も暗い時期でしたが、右側の2等星ベラトリクスに近いほど暗くなることは珍しく、今回は過去50年間では最も輝きを失いました。

恒星は地球から非常に遠く、望遠鏡で見ても普通は点にしか見えませんが、赤色超巨星のベテルギウスは地球から約640光年と比較的近い上、太陽の1000倍以上(太陽系で言えば木星の軌道のあたり)に膨らんでいるため、高解像度の観測で表面の様相を調べることができる数少ない恒星の一つです。そのベテルギウスが超新星爆発を起こせば、人類が経験する最大の天体ショーになるのではないかと騒がれました。昨年9月のベテルギウスの実視等級は約0.6等、今年2月10日

前後には1.6等まで減光して底を打ち、2月下旬から増光に転じたとのことで、専門家の間では超新星爆発はないとの見解で一致しているようです。超新星爆発と言えば1054年7月4日から1056年4月5日まで観測された例が中国の古典に記録されているそうです。この超新星爆発は藤原定家の日記「名月記」にも記録があるとのことで、その爆発の名残が今では直径10光年程度にまで膨らんで、7,000光年先の「かに星雲」としてメシエカタログ(フランスの天文学者C.メシエが作成した星雲・星団・銀河のカタログ)の1番目の星雲(M1)として有名です。超新星爆発では大部分のエネルギーが大量の光やニュートリノとして放出さ



れますが、ニュートリノの研究で小柴昌俊博士が2002年に、梶田隆章博士が2015年にノーベル物理学賞に輝いたのは記憶に新しいところです。

ここで駄作を一句、
「オリオンの ベテルギウスの
減光に 凍てる夜空へ 熱い眼差し」
(広報いなざわ、2020年5月号掲載、伊藤英一選、入選作)
(写真データ: 1967/2/4、22:19、アサヒペンタックス SP、55mm F1.8の標準レンズ開放 20秒、フィルムはネオパンSSS(ISO 200))

伊勢湾台風から60年～防災・減災を考える～

伊勢湾台風はなぜ東海3県に甚大被害もたらしたのか(1)

野田 珠生

前号では、昭和34年に来襲した伊勢湾台風の概要と東海3県の被害状況について述べました。今回は東海3県になぜ未曾有の被害が出たのか、その自然的・一次的要因について述べ、それにより惹き起された人為的・2次的要因については次号以降に続けます。

① 高潮 愛知・三重両県における甚大な被害の要因として考えられるのは、まず未曾有の高潮の発生があげられます。伊勢湾は、湾口が南に開き外洋の海水が流入しやすく、また水深が浅いため構造上高潮が発生しやすくなっています。

高潮は気圧低下により海面が吸い上げられる「吸い上げ効果」と風が海岸に吹き寄せられる「吹き寄せ効果」等により生じます。また、台風が西側を北上すると南風が吹き続けるため、伊勢湾の西側を通過した台風の巨大なエネルギーで昭和34年9月26日21時35分、名古屋港において我が国観測史上の最高潮位となるT.P.(東京湾平均潮位)3.89mが記録されました。この異常潮位は2019(令和元)年

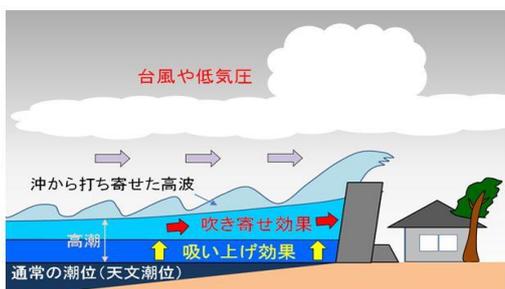


図1 高潮発生メカニズム(気象庁HPより)

現在も全国観測地点において記録を塗り替えていません。海拔の低い伊勢湾沿岸の潮の高さは実際には7m

県名	全壊(戸)	半壊(戸)	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
愛知県	24,718	70,752	67,202	58,426
岐阜県	3,947	11,052	3,170	13,892
三重県	5,213	12,193	44,423	35,806
全国	36,135	113,052	157,858	205,753

東海3県の建物被害状況

以上に達したといわれています。(*1)

出典: 国立研究開発法人
防災科学技術研究所
台風災害データベースシステム

伊勢湾の湾奥部は江戸時代以降の干拓によって陸地化されたところが多く、この高潮・高波の直撃で堤防が広範囲にわたり決壊したことにより多くの家が倒壊・浸水しました。半田市では、昭和28年に来襲した台風13号の経験を踏まえ高さ5.3mの堤防が設置されましたが、堤防をはるかに超える高潮が襲い45カ所で2.5kmにわたり堤防が決壊しました。

高潮による死者数は、愛知県では、名古屋市南区:1,417人(人口比%(以下同じ)1.0)、名古屋市港区:375人(0.4)、半田市:290人(0.4)、知多郡上野町(現東海市北部):140人(0.9)、三重県では長島町(現桑名市):381人(4.5)、木曾岬村(現木曾岬町):328人(1

0. 9)、川越村(現川越町):174人(2.3)、鍋田干拓地では住民318名のうち133名が犠牲となりました。(*2)

② **暴風** 台風の記録が整備された昭和26年以降現在までで2番目に低い気圧92.9hPaを記録した伊勢湾台風は高潮のみでなく暴風による被害ももたらしました。台風の東側に位置した伊勢湾沿岸から濃尾平野にかけての最大瞬間風速は伊良湖岬55.3m/s、名古屋45.7m/sを記録し、津気象台では瞬間最大風速61m/sを超え、風速計が破損しました。送電鉄塔や電柱が強風に耐えきれず相次ぎ倒壊しました。また移動速度が時速70kmと速く、岐阜県においては瞬間最大風速44.2m/sの強風により豪雨と相まって台風史上最大の被害をもたらしました。(*3)

③ **短時間降雨・出水による海岸・河川堤防の決壊** 紀伊半島各地では台風上陸の前日から400mmの降雨があり、台風通過前には揖斐川、長良川上流では時間雨量80mmに達し、短時間の集中的な降雨により、木曾三川河口付近で計画高水位を上回った中小河川の堤防がズタズタに決壊し、これまでで最大の洪水・浸水を引き起こしました。このことにより高潮が到来しなくても短期的集中豪雨により堤防の決壊・越流により洪水・浸水が引き起こされることが明白となりました。

木曾川船頭平観測所(愛西市)では最高水位5.74mに達しました。(*4)

④ **輪中・干拓地・埋立地等の低平地の広さ** 濃尾平野南西

部は木曾三川が作り出した粘土・砂・礫などで形成された軟弱地盤で約300年前までは海でした。江戸時代から行われた干拓による新田開発で輪中が多く形成されましたが、海拔0~0.5mの低平地が堤防によってかろうじて浸水から守られており、豪雨のたびに破堤しては水に浸かる地域であったため未曾有の高潮で堤防が決壊し多くの犠牲者が出ました。

伊勢湾岸域は全国一の広いゼロメートル地帯であり、台風による広範囲な浸水は予想されていたことではありましたが、これまではこの地域に直撃する台風が少なく大きな被害を受けなかったため、防災対策の遅れが露呈したこととなりました。

⑤ **来襲時刻が夜間であったこと** このことは後述する防災対策と密に関連してきますが、暴風による停電、台風情報伝達の遅れ、出水による避難行動の遅れなど夜間であるが故の困難さが被害を大きくしたことも否めません。

(注)掲載したデータは出典により多少の差異があります。

【引用文献】

- * 1 「伊勢湾台風の全容」(1959年) 中日新聞社
- * 2 「1959 伊勢湾台風報告書」(2008年) 中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門委員会
- * 3、* 4 「KISSO 伊勢湾台風から60年特別号」(2019年) 木曾川下流工事事務所

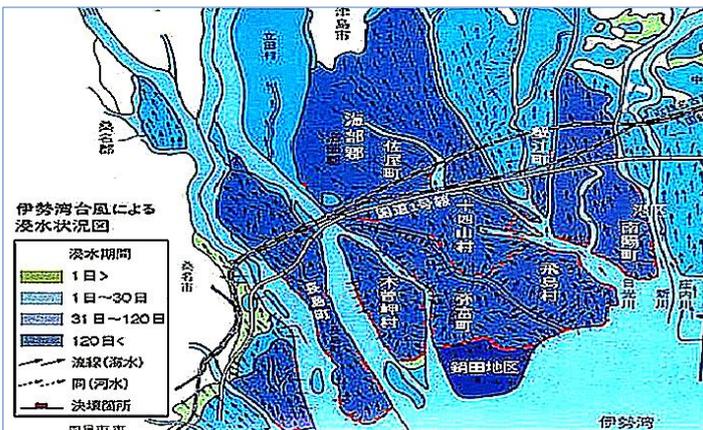
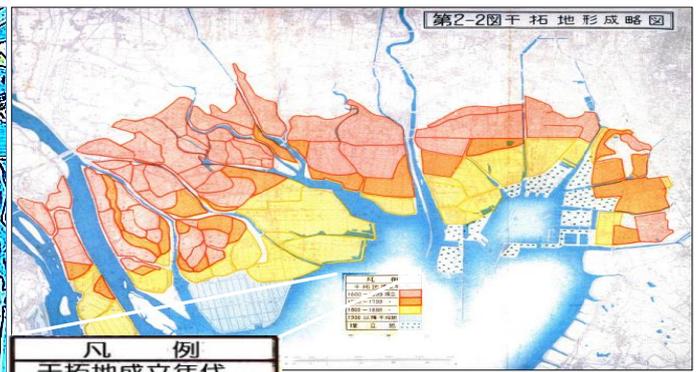


図2 伊勢湾台風による浸水状況図(赤印は決壊箇所を示す)「伊勢湾台風復旧工事誌」(1963年) 中部地方建設局



凡 例	
干拓地成立年代	
1600-1699	成立
1700-1799	成立
1800 - 1899	成立
1900年以降干拓地	成立
埋立地	埋立地

図3 干潟地形成略図「伊勢湾台風被害調査報告書第17号」科学技術資源調査会

UNDB-J 認定顕彰 ～祖父江のホタルを守る会～

野田 珠生

私の所属する「祖父江のホタルを守る会」(稲沢市)がこのたび、「国連生物多様性の10年日本委員会」の連携事業(第15弾)に認定されました。「守る会」は2003年に発足以来自生のホタルを守ろうと飛翔数の観測を125地点で15年にわたり観測し続け、小・中・高・大学での環境教育・共同研究、自然観察会等を様々実施してきました。また、ホタルの生息環境を守るため米の無農薬栽培を8年前から始めました。近郊の小学生や多くのサポーターの田植えや稲刈りの協力もあり、秋には収穫祭で盛り上がっています。



地元の企業が本社工場跡地にホタルを復活させるプロジェクトを創設するなど私たちの活動が地域に広がってきています。

名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議から10年目の節目として開催されたイベントの会場において「守る会」が顕彰されたことは誇らしく思うとともに今後も「愛知目標」の達成のための活動をひきつづき進めていきたいと考えています。

現代化学史考 (21)

廣田 襄* 著「現代化学史」を読んで

2 現代化学の誕生とその発展～11 (19世紀末～20世紀初期)

森田 登喜子

原子の構造と量子論 (2)

〈ボーア理論の展開と原子の構造〉

ボーアの量子理論は、H とイオン化によって電子軌道に 1 電子しかない He^+ , Li^{++} , Be^{+++} のような一電子原子の構造はよく説明できましたが、多電子原子に対しては十分に説明できませんでした。1915年ドイツのアーネルト・ゾンマーフェルトは電子の楕円軌道を考えてボーア理論を拡張しました。さらに電子の量子化のために主量子数 n , 方位量子数 l , 磁気量子数 m の 3 量子数を導入しました。磁気量子数 m により磁場中におけるスペクトル線の分裂 (ゼーマン効果) が部分的に説明されましたが、なお説明しきれない分裂 (異常ゼーマン効果) がありました。1922年、ボーア自身も原子内の軌道 (殻) にエネルギーの低い順に電子を詰めていく「築き上げの原理」を用いたモデルを提唱しました。彼は殻内の電子を 2, 8, 8, 18, 18, 32 に分け、この周期で周期表 86 番目までの元素を並べました。さらに 8 から後のグループを 2, 6, 10, 14 のサブグループに分け、スペクトル線との関連から s, p, d, f 殻 (軌道) と呼びました。これによって「異常ゼーマン現象」の説明ができました。1924年にスイスのウォルフガング・パウリが原子の中のどの電子も同じ量子数をとることはできないという「パウリの排他則」を用いて s 軌道に 2, p 軌道に 6, d 軌道に 10, f 軌道に 14 の電子が入ることを示しました。これで量子論により周期表における元素の順番の説明ができました。しかし、まだ多くの物理的・化学的問題が残されていました。ゾンマーフェルトは偉大な教師で、門下からはパウリをはじめ 4 人のノーベル賞受賞者が出て量子論の新たな展開に寄与しました。

〈中性子の発見と核の構造〉

1907年のラザフォードによる原子核の発見以後 20 年間、原子核は陽子と電子から成り立っていると考えられてきましたが、1932年イギリスのジェームズ・チャドウィックが中性子を発見しました。

1891年イギリス・マンチェスターで生まれたチャドウィックは幼い頃から優秀で、ラザフォードのいるマンチェスター大学に入学しました。最初ラザフォードは雲の上の人でしたが、21才で物理化学研究所に入って彼の下で研究することができました。間もなく先輩のガイガーがベルリンの国立物理工学研究所に移ったためベルリンに留学しました。ところが第1次世界大戦が始まって収容所に入れられ、ガイガーの嘆願も虚しく解放されませんでした。せめてもとガイガーは実験器具を差し入れ、チャドウィックは所内で実験をしま

した。戦後、彼は 4 年間の収容所生活から解放されてイギリスに帰国し、マンチェスター大学、ケンブリッジ大学・キャベンディッシュ研究所とラザフォードの下で精力的に放射能

の研究を再開しました。1930年彼の留学していたベルリンの研究所でヴァルター・ボータが、ポロニウムから出る α 線をベリリウムにぶつけるとベリリウムの原子核からきわめて透過力の強い放射線が発生することを発見しました。その後フランスのフレデリックとイレーヌのジョリオ＝キュリー夫妻が、ベリリウムに α 線を照射して生じた電荷を持たない放射線をパラフィンなどの水素を含む物質にぶつけると、物質から高速の陽子が飛び出すことを発見しました。彼らはベリリウム線をエネルギーの高いガンマー線だと推測しましたが、ラザフォードとチャドウィックは夫妻の仮説に納得しませんでした。かねてからラザフォードは原子核の中には陽子より質量の大きい電氣的に中性な未知の粒子があるという仮説を立てていました。チャドウィックは、 α 線源のポロニウムとターゲットのベリリウムを含むシリンダーからなる単純な装置 (図) を考案し、ベリリウム線をさまざまな物質にぶつける実験を続けました。そして、陽子を飛び出させるベリリウム線は電氣的に中性で、質量が陽子よりわずかに大きいことを知りました。彼はこれを未知の粒子、中性子であると発表しました¹⁾。

中性子の発見は核物理学・化学の分野に大きな変革をもたらしました。またこの年には重水素、陽電子と重要な発見が続きましたので、「1932年は奇跡の年」とも呼ばれています。1935年チャドウィックは「中性子の発見」でノーベル物理学賞を受賞しました。

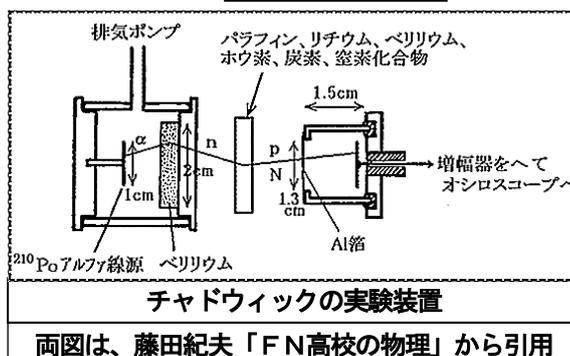
現在中性子は中性子放射化分析に応用され、物質中の微量元素を高感度で検出して、多くの実用面で力を発揮しています。環境分析では、例えば河川水の上流から下流への内容物の変化をたどれるようにし、周辺環境の影響を示すことを可能にしました。

中性子の発見はウランの核分裂、原子爆弾の開発へと繋がっていきました。第2次世界大戦中チャドウィックは重要な情報を持つイギリス側責任者としてマンハッタン計画に関わりました。戦争直後には核兵器の廃棄、平和利用をめざす国連原子力委員会ではイギリスの科学顧問を務めましたが、核抑止論の立場からイギリス

の核保有を支持していました。帰国後彼はケンブリッジ大学のカレッジの学寮長として若い学者の育成に努め、1974年ケンブリッジで穏やかに生涯を閉じました。「化学の真理に触れるとき私の心は夢を見ているような幸福に包まれる。夢が長く続けば良いのだが・・・」という言葉を残しました。ひたむきな学究の徒の歴史の波に揉まれた人生でした。



チャドウィックの
中性子チェンバー



1) The Existence of a Neutron

James Chadwick, Proc. Roy. Soc. A, 136, p692, 1932年

* 廣田襄 京都大学名誉教授 (化学・物理化学専攻)

平和公園の春の草花

安井 照国

平和公園では、春になりウグイスの鳴き声があちこちから聞こえてきます。この時の花はタンポポをはじめ黄色の花が目立ちます。①ヒメオドリコソウが見られました。②白いタンポポが昨年度と同じ所で咲きました。③シュランが春先の草刈り機に負けずに咲いていました。④サクラとビオトープの景色が絵になります。⑤春はやはりチューリップですね。⑥シモクレンが咲いています。⑦スイセンがいつもの場所で咲いていました。⑧ハクモクレンはシモ

クレンより早く咲きます。⑨ミツバツツジは平和公園の中で一番目立っています。⑩ロウバイが咲いています。⑪サンシュユの花が見つかりました。⑫ユキヤナギが平和公園でも咲いていました。

世の中はコロナウイルスの発現で暗雲が立ちこめていますが、花々は咲き乱れ、自然はいつも通りの春を告げています。



①ヒメオドリコソウ



②シロバナタンポポ



③シュラン



④サクラ



⑤チューリップ



⑥シモクレン



⑦スイセン



⑧ハクモクレン



⑨ミツバツツジ



⑩ロウバイ



⑪サンシュユ



⑫ユキヤナギ

身近な仲間たち ～～ カラス ～～

樋口 祐子

最近、家の近くにカラスが増えました。ルール違反で出されるごみを狙って集まってくるのです。町内会で張り紙をしたり、回覧板を回したりして注意を呼びかけているのですが、マナーを守らない人はどこにでもいますね。

私たちの回りで見られるカラスには2つの種類があるのをご存知ですか。

そうです。ハシブトガラスとハシボソガラスです。街の中や公園にはハシブト、郊外にはハシボソが多く、ハシブトのほうが、少し体が大きいです。どちらも雑食性で嗅覚はあまり鋭くありませんが、視力に優れ、ごみをあさる時は目で探すようです。

カラスの知能は人間の3歳の子どものと同じくらいといわれています。記憶能力が高く、一度うまく餌にありつくと再び狙ってくるのです。

カラス科、カラス属。中部地方では年中見られる留鳥です。自然観察会に行っても、鳥はすぐ動くので、鳥の観察はきらいですが、ハシブトかハシボソか見分

ける時は、ぱっとおでこを見ます。ぱっと！ぼこっと出っ張っていればハシブトに間違いなし。

声でも分かる時があります。澄んだ声で「カーカー」と鳴くのがハシブト、どちらかという、「ガーガー」と濁った声で鳴くのがハシボソです。

英語表記ではハシブトは「Jungle crow (ジャングル クロウ)」。元々ジャングルに棲んでいたのでしょうか。ハシボソは「Carrion crow (カリオン クロウ)」。「Carrion」とは腐った肉のことです。

今はカラスはあまり人に好かれませんが、大正時代には野口雨情作詞の「七つの子」に「まるいめをしたいいこだよ」と歌われました。最近ではかこさとし作・絵の「からすのパン屋さん」に主人公で登場したりして、子ども達に人気があります。

カラスのパン屋さんが作ったのはアイデア豊かで、とっても素敵に変った形の楽しいおいしそうなパン。一度、おやつに食べてみたいなあ。

【注記：挿絵は堀井正明氏作】



草の根環境学習 木のストラップ

礪貝 はるみ

愛地球博記念公園(モリコロパーク)の地球市民交流センターで実施している数ある体験学習のプログラムの中で、一番数多くおこなわれているのが「木のストラップ」作りです。これは短時間でできるので、たいてい他のプログラムとセットでおこないます。

ストラップの材料となるのは、モリコロパークの里山保全(里山の生態系保護)の間伐作業で伐採された木材(おもにリョウブ、アラカシ、ヒサカキなど)です。また、ここの里山にはイノシシ、タヌキ、キツネ、イタチ、ムササビなどの動物やギフチョウ、ハルゼミ、ハッチョウトンボなどの昆虫など貴重ないきものが生息しています。彼らの生息環境を守るために間伐や植樹をして、里山の良好な環



境を守っていることなどを伝えると、「え〜、キツネやタヌキもいるの〜」と子どもたちの興味が急に増します。

篠田氏の手によって、2〜3ミリの厚さにスライスされた木材はまるでおせんべいのように繊細です。一つひとつ色や形、模様が違う木材に色鉛筆で思い思いに絵を描き、最後に木片にあげられた小さな穴にひもを通して出来上がり。最近では生活の中でこのような体験が少なくなっているのでしょうか。実はこのひも通し作業が低学年の子どもたちにとって、一番の難関であったり

します。完成したオンリーワンのストラップ。素敵なお土産を笑顔で持ち帰ってくれる様子はうれしいものです。

三筋の街道 (町中発見)

説田 育正

甲賀市内の野洲川右岸の高台を通る旧東海道を西に歩いて行くと、右手にこんもりとした山が見えてきます。そこには、戦国時代末期に水口(みなくち)岡山城がありました。東海道の要衝です。少し歩いて急な坂を登ったところに再建された水口宿東見附があります。ここから西へ約2.5kmの間は旧水口宿で、他の宿にない2つの特徴に気がつきます。

東見附を通ると、すぐ左手に脇本陣と本陣があります。見附のすぐ近くにこれら重要な施設があるのも珍しいことですが、ここからすぐのところが高札場があり、街道が三筋(みすじ)に分かれています。三筋に分かれてすぐ左手に問屋場(といやば)があります。人馬や荷車が集まる問屋場が本筋の東海道と南裏町筋さらには脇道に接して設けられているのは、人馬の流れから考えても合理的な配置といえます。江戸幕府は街道の幅を5間(約9m)と決めましたが、実際にはこれより狭い区間がたくさんありました。わが国の町は街道に沿って発展してきましたので、一筋の街道町をつくるのが普通です。街道が三筋に分かれて宿場町が形成されているのは、ここ水口宿だけです。街道を三筋にすることにより人馬の流れが良くなり、線から面へと町としての機能が広くなります。これは現代の都市づくりに共通することです。この三筋の紡錘状の町並の原型は、水口古図^{注1}などに

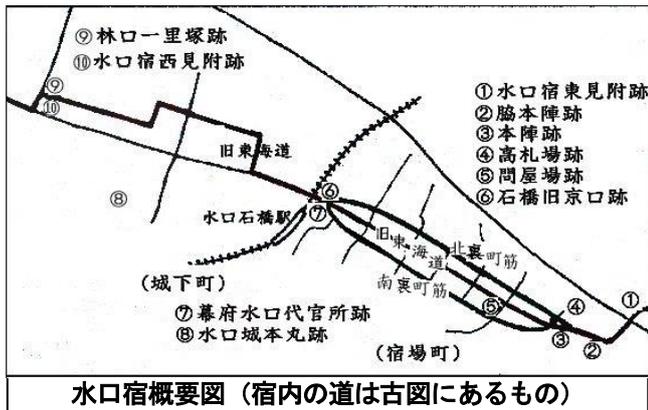
よると、1585(天正13)年に水口岡山城が築かれた頃に形成された^{注2}ものと考えられています。

本筋の東海道と南北2つの裏町筋は、水口宿について研究された大場修博士の論文^{注3}によると、

”近世末期の水口宿は、街道筋と裏町筋とでは、業種構成、町家規模、町家立地密度などの点で、異なる町並を構成する。街道筋は中地区を中心に旅籠屋や商家が建ち並ぶ宿場的景観を呈するのに対し、裏町筋は小規模な百姓屋を主体とする街村的景観であると考えられた。”と、書かれています。

古い町並が比較的良く保存された街道を進んでいくと、近江鉄道線の手前で三筋の街道が合流します。ここに石橋旧京口跡があり、ここまでが宿場町の機能を持つエリアです。ここから先は城下町のエリアになり、旧東海道は水口城の北側を回り込むようになっていますが、これは城の整備にともない迂回したためです。さらに進んで五十鈴神社の南西に水口宿西見附跡があります。

水口宿は、宿場町と城下町の機能を持つエリアが東西に分かれて存在していること、そして東西の見附が小さな柵形になっているほか、宿の内側および宿近くに柵形の道がないことが2つめの特徴です。これについては、長くなりますので別の機会に譲ります。



水口宿概要図(宿内の道は古図にあるもの)

注1 甲賀市水口歴史民俗資料館蔵
注2 「水口宿の歴史散歩ガイドブック」みなくち観光ボランティアガイド部発行 などによる。
注3 大場 修「東海道水口宿の町並構成と町家形式」日本建築学会計画系論文報告集424号1991年6月



三筋の東合流地点と高札場(左が東海道、すぐ先で南裏筋と分岐する)



三筋の西合流地点(中央が東海道)

AECA 会報の展望

会報編集委員会担当理事 森田 登喜子

編集委員会に参加して2年になりますが、委員皆さまのご尽力と寄稿者のご熱意には折に触れ感銘を受けております。また、編集会議は談論風発で大変楽しく、時の経つのを忘れるほどです。

そんな中、最近会報をめぐって二つの課題が編集委員会や理事会で話し合われました。

一つは会外部への広報、また一つは現在会が喫緊に取り組まねばならない「会勢の維持、発展」のために会報を役立てることです。前者に対しては「個人情報取り扱いに留意しつつ、発行された会報をホームページに掲載する」ことが決められました。後者のためには、会員の結集や未加入カウンセラーへ働きかける会報を目指して内容や作成方法を工夫しなければなりません。

理事会では「AECA の内外でカウンセラーはさまざまな活動をしている。それを掘り起こして記事にしたらAECAへの参加を促せるのではないか」というような意見が出ました。たしかに会員として繋がっていくために参加意識を促すことは重要であり、会報も大切な紐帯の一つです。編集委員がカウンセラーのいろいろな活動の場を取材

して、結果を会報に挙げる姿が思い浮かびました。ほかにも何か良い記事の採り方があるかもしれません。

しかし、編集委員会はすでに精一杯の努力をしています。会報で寄稿を呼び掛け、編集委員の募集を行ない、AECAの諸行事に参加した会員や編集委員周辺の会員には積極的に寄稿をお願いしています。編集委員会がこの枠からさらに踏み出すことは、危険な「未踏のワーク」で、委員会の持続が危ぶまれます。

とはいえ、それが必要な課題であるならば等閑にはできないでしょう。そこで求められるのは、理事会共々さらには会全体で丸になって取り組んでいく姿勢です。編集委員会にさまざまな提案を寄せていただく、場合によっては取材をして記事を挙げていただけるような「編集委員会を取り巻く大きな活動のサークル」があれば、かならずしも難しい課題ではないかもしれません。最初の安全な一歩と会員の結集は正のスパイラルを作ることが期待できます。

今回の話し合いを良い契機として、AECA 会報が一層発展することを願っております。

会員の皆さまのご協力をお願いいたします。

会員のみなさまへ

編集委員一同

会報編集委員の平均年齢は高齢化しています。記事のマンネリ化を防ぎ、引き続き会報を発行していくために新鮮な力を必要としています。編集作業は難しくはありませんが慣れは必要です。今ならばスムーズな世代交代が可能です。少しでも関心のある方、ぜひ編集を行ってみませんか。投稿もお待ちしています。

編集後記

(森田 登喜子) 新しきウイルスに合う この星にホモサピエンスの生命永かれ

(樋口 祐子) 今回の「身近な仲間たち」はカラスを取り上げました。2、3日カラスを追いかけていたのですが、うまく写真が撮れず困っていたところ、編集委員の知り合いの方が描いてくださいました。感謝しています。編集の仕事は楽しいですよ。多くのお仲間を待っています。

(説田 育正) 一生懸命に編集しました。みなさん、これからも会報を読んでください。

(野田 珠生) 4月3日の朝日新聞朝刊に福岡伸一氏の興味深い記事を見つけました。ウイルスはもともと高等生物の遺伝子の一部が外部に飛び出した家出人のようなもの、元の宿主に戻ってきたら宿主は家出人を優しく迎え入れる。私たちの元同居人だったとは、これからも手を変え品を変えウイルスは古巣に還ってくることでしょう。このことを肝に銘じ、防災・減災対策の中にしっかりウイルス対策を位置づけることが重要であることが分かりました。

会報誌編集はAECA 会員と親交を暖めるよい機会です。皆様の参加をお待ちします。

(礒貝 はるみ) 皆様の地域の様子、ちょっとした発見など身近な話題、お待ちしております。編集作業も一緒に是非に！

(古賀 正輔) 日を浴び、良く眠り、手洗い、うがい、ドアノブ消毒頻繁に！ さらに、笑顔で過ごしましょう。

編集Gより：AECA 会報への投稿ご希望の方、会報編集に参加をご希望の方は奥付に記載のAECAのE-mailアドレスに連絡ください。なお、会報の配送を辞退された方には、電子版会報(カラー)を配信します。配送辞退の方は奥付に記載のAECAのE-mailアドレスに連絡ください。

NPO 法人愛知環境カウンセラー協会報第87号

題字は佐藤正光氏揮毫

NPO 法人愛知環境カウンセラー協会

〒453-0041

名古屋市市中村区本陣通5-6-1

地域資源長屋なかむら 201

発行2020年5月7日

編集：森田、樋口、説田、野田、礒貝、古賀

HP：<https://sites.google.com/site/npoaeca/>

E-mail：npo.aeca.npo@gmail.com

TEL&FAX：052-471-7477 (電話は月～金曜)

郵便振替：00810-0-118938